

特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス  
2011(平成23)年度事業報告

国際協力事業:アジア事業	2011 年度事業決算	12,876,195 円
--------------	-------------	--------------

●地雷埋設地域村落開発プロジェクト【カンボジア】

今年度はバタンバン州カムリエン郡の3村で、村落開発支援を実施。3村は、いずれも提携する地雷撤去団体MAGによって地雷撤去が実施され、村人の生活圏内の地雷は撤去されているが、まだ村の中には地雷原が残っている場所も存在している。このプロジェクトでは、村人たちの自治によって村を発展させ、最貧困層、特に厳しい生活環境におかれている地雷被害者やその家族の生活をサポートしていく。

～オッチョンボック村～

■社会保障制度支援

村落開発支援を始めた2008年以来、小規模融資や健康保険の制度を村人たちが運営し、2011年度に健康保険は、約362.5ドルが貯蓄され、亡くなった1名と病気の治療のために2名に適用された。

■基礎教育支援

オッチョンボック小学校では、第5回「頑張らない」チャリティバドミントン大会よりご寄付いただき、学習机と椅子のセットを76セット購入した。

■収入向上支援

村の地雷被害者の3家族へ自然養豚方法を用いた豚飼育技術を実施した。



新しい机で勉強する子どもたち

～プレア・プット村～

■社会保障制度支援

プレア・プット村の住民組織では、村長を中心に小規模融資や健康保険の制度を2009年から運営を始め、2011年度は、村で亡くなった人の2家族へ保険が適用された。

■基礎教育支援

NPO法人コミュニティ時津からのご寄付で、小学校の教員用宿舎を建設した。また、村の子どもたちへNPO法人コミュニティ時津より、文房具や衣服が届けられ、さらに、2012年3月に開催したスタディツアーの際にも京都文紙事務用品組合からの文房具を届けた。

■収入向上支援

自然養豚方法を用いた豚飼育の技術を、4家族の地雷被害者家族へ提供した。その他、この村に自生している竹を利用し、竹製のうちわを村人たち19家族に製作してもらい、彼らの収入向上に役立っている。2011年度は、表面は、オッチョンボック村のクメール伝統音楽楽団の宣伝用のポスターとして、裏面は、地雷の危険性を地雷埋設地域の



豚飼育の様子

人々に知らせる地雷回避教育用のポスターとして 1,300 枚製作し、カムリエン郡で配布した。

～ロカブス村～

#### ■社会保障制度支援

2011 年 1 月より支援を開始し、村人たちと村に住民組織を設立し、小規模融資や健康保険の仕組みづくりを実施している。この村では 5 名の村人の病気の治療費と、亡くなった 2 名の家族へそれぞれ健康保険が適用された。

#### ■基礎教育支援

村の小学校に、スタディツアーで、京都の文紙事務用品組合よりご寄付いただいた文房具を提供した。また、ツアー参加者と子どもたちによる小学校の清掃活動を実施した。

#### ■収入向上支援

2011 年 6 月から 2012 年 4 月 10 日まで、約 10 ヶ月間にわたり、女性地雷被害者の現地スタッフ、サムリット・ラウを村へ派遣し、村の貧困層の若い女性 7 名へ裁縫技術訓練を実施した。



裁縫技術訓練の様子

### ●地雷埋設地域小学校建設プロジェクト【カンボジア】

#### ■ブオ・ソククリアチ村小学校建設

2011 年 3 月より、バタンバン州バヴェル郡のブオ・ソククリアチ村にて、日本の外務省からの日本 NGO 連携無償資金協力による小学校建設を実施した。プロジェクトでは、6 教室の小学校校舎だけでなく、トイレ、雨水を貯める貯水タンク、教員用宿舎も同時に建設し、教員、生徒用机椅子、黒板を提供。2011 年 10 月から小学 1 年-6 年生までの生徒 210 名と幼稚園児 40 名が、この小学校に通っている。12 月には図書室を設置し、合計 600 冊以上のクメール語の本と日本語のクメール語訳付きの絵本を提供し、最貧困層の村人の子どもたち 61 名へ制服を提供した。また、スタディツアーの際には、NGO 地雷ゼロ宮崎からのおもちゃを幼稚園クラスへ、京都文紙事務用品組合からの文房具を全校生徒へ提供した。

#### ■オウ・チェット・プラム村小学校建設

2011 年 3 月より、パイリン特別市サラ・クラウ郡オウ・アンドン区のおウ・チェット・プラム村で、鹿児島株式会社トータルハウジングからのご寄付により、5 教室の小学校と 2 基のトイレを建設した。この村は、かつてクメール・ルージュ軍の拠点があり、多くの地雷が埋められていたが、地雷撤去団体 Halo Trust によって地雷が撤去された後に、小学校を建設した。周辺の村からも合わせて 240 名の子どもたちが通っている。



開校式の様子

### ●クメール伝統音楽復興&継承プロジェクト【カンボジア】

2010 年度に引き続き、バタンバン州カムリエン郡のオッチオンボック村にて、トヨタ財団のアジア隣人プログラムの助成金によるプロジェクトを実施している。村の貧困層や地雷被害者らで構成されるクメール伝統音楽楽団は、カム



ジュニア楽団の練習の様子

リエン郡の結婚式や第 11 回対人地雷禁止条約締約国会議の政府代表団のフィールド視察で演奏し、その謝礼による収入を得ている。また、伝統楽団を宣伝するための団扇を製作し、カムリエン郡で配布。村の小学校では、放課後に村の子どもたちを対象にした伝統楽器のトレーニングが実施され、村で伝統技術を継承している。

### ●地雷回避教育プロジェクト【カンボジア】

テラ・ルネッサンスでは、地雷の危険性を知らせる地雷回避教育用グッズとして地雷うちわを製作し、提携する地雷撤去団体 MAG (Mines Advisory Group) のコミュニティ・リエゾン・チーム (Community Liaison Team) が実施する地雷回避教育のワークショップで、地雷埋設地域に住む住民たちへ配布している。2011 年度は、1,300 枚の地雷うちわを製作し、地雷埋設地域のバタンバン州カムリエン郡のワークショップにおいて配布した。

### ●地雷撤去支援プロジェクト【カンボジア】

2011 年 3 月に行ったスタディツアーの際に、提携する地雷撤去団体 MAG へ、地雷撤去活動費として 4,000 ドルを提供した。この資金は、スタディツアーを合同で実施している NGO 地雷ゼロ宮崎からの資金とともに、MAG の地雷撤去活動費として、利用される。

<その他の活動>

### ●第 11 回対人地雷全面禁止条約締約国会議への参加【カンボジア】

2011 年 11 月末から 12 月初めにかけて、カンボジアの首都プノンペンで、第 11 回対人地雷全面禁止条約締約国会議が開催され、江角駐在員と現地スタッフ、ボレンが参加した。同時に提携する地雷撤去団体 MAG への各国政府代表団のフィールド視察で、地雷埋設地域の貧困層や地雷被害者で構成されるオッチョンボック村のクメール伝統音楽楽団が、演奏を披露した。



政府代表団前での伝統楽団の演奏

### ●ASEAN 違法小型武器・不発弾問題に関するワークショップへの参加【カンボジア】

2012 年 3 月末に ASEAN の違法小型武器・不発弾問題に関するワークショップがカンボジアの首都プノンペンで開催され、江角駐在員と現地スタッフ、クン・チャイが参加した。日本政府の資金によって開催されたワークショップでは、ASEAN 各国の代表者が参加し、5 日間の会議やカンボジアの武器管理倉庫のフィールド視察が行われた。



**●ウガンダ北部における元子ども兵社復帰支援プロジェクト(対象地域:グル県)【ウガンダ】**

2010 年度から受け入れている元子ども兵 38 名(第 5 期生)が、職業訓練で得た技術を使って地元の村やグル市内で木工所や洋裁店などを開き、生活に必要な収入を得ることができるようになり、2012 年 3 月時点で、全員が食費は自らの収入によってまかなうことが出来るようになった。

収入が不安定な元子ども兵もいるが、全員が近隣住民との相互扶助の活動にも参加できるようになっている。今後、2012 年 8 月を目処に 5 期生全員の社会復帰を完了する予定で支援を継続している。

2011 年 7 月には第 6 期生となる元子ども兵 20 名を受け入れ、生活費の支援と共に、自立に向けての職業訓練や基礎教育、心理社会支援などを行っている。2012 年 5 月現在、フルタイムでの訓練プログラム(1 年半)の折り返し地点に差しかかり、2012 年 12 月には全員の施設での訓練を完了し、2013 年 1 月には、実際に得た職業技術を使って実地での収入を得る為の支援に切り替えていく予定である。今年度の現地事務所でのプロジェクト運営は、現地職員(ウガンダ人)を当会ウガンダ事務所の所長に据え、地元で雇用した職員を中心に行ってきた。



6 期生の授業の様子



洋裁の授業の様子

**●不法小型武器問題の啓発活動(対象地域:カンパラ市)【ウガンダ】**

ウガンダ国内で不法小型武器問題の啓発活動に取り組む NGO のネットワーク組織である UANSA(ウガンダ小型武器行動ネットワーク)との定期的な情報交換を行った。また、同地域の市民社会のネットワークを強化すること及び、一般市民への小型武器問題の啓発が必要との観点から、UANSA の開催するセミナー、ワークショップ、啓発活動へ資金提供を行った。

**●東部コンゴにおける元子ども兵及び紛争被害者支援【コンゴ】**

2010 年度に引き続きコンゴ民主共和国東部での事業を、南キブ州にて、同州ブカブ市に拠点を置く現地 NGO 「GRAM(グラム)」と連携し実施した。同事業では、2008 年、株式会社アイケイのグローブ基金により完成したグローブハウスⅢを拠点に、同州カロンゲ区域の 12 村の元子ども兵及び性的虐待を受けた女性、孤児などの社会的弱者 711 名及びその家族 2,700 名を対象に、紛争下で基本的ニーズを満たすことを目標に下記の活動を行った。また、現地での移動及び物資運搬等に不可欠な 4 駆車両(ランドクルーザー)をプロジェクト専用車として調達した(車両の登録作業は次年度(2012 年 4 月)に完了した)。

### ■ 自給食料を確保するための活動

同地域は現在も武装勢力(FDLR)の影響下にあり、村々の襲撃や住民の殺害、食料の略奪などによって人々は不安定な生活を余儀なくされている。こうした状況の中、必要な食料を確保するために相互扶助グループ(12村)を組織し、農業指導や農具、種子の供与、魚の養殖池の整備支援を行った。



魚の養殖池の様子



漁獲した魚

### ■ 自立のための収入向上支援活動

元子ども兵や紛争被害者を対象に技術訓練を行い、技術習得後、グループで洋裁店を運営する為の指導を行った。その上で、4村(4グループ)で洋裁店を建設し、主に性的暴力を受けた女性グループに収入を得る機会を提供することができた。



洋裁店の運営準備をする受益者たち



洋裁店運営のための準備をする受益者と  
小規模ビジネスの指導員



現地NGO、GRAMのスタッフとの打ち合わせ



日本	2011 年度事業決算	25,836,138 円
----	-------------	--------------

## 1. 啓発事業

本会の活動や、取り組んでいる課題(地雷、小型武器、子ども兵)についての啓発活動を、講演やイベントなどの実施を通じて積極的に取り組んだ。

### ●講演

本会職員による講演を各地で実施。企業での講演が増加した。主なテーマは、「地雷畑で見た夢(地雷)」、「ぼくは 13 歳 職業、兵士。(子ども兵)」、「こうして僕は世界を変えるために一歩を踏み出した(社会起業)」、「東日本大震災復興支援活動(ともつな基金)について」。

### ●主催イベント

テラ・カフェ(開催場所:京都)は 2011 年 11 月を除き、毎月開催した。また、6 月には子ども兵の課題に関するシンポジウムを開催した。

04 月 13 日(水)第 1 回テラ・カフェ(テラ・ルネッサンスの海外事業)

05 月 11 日(水)第 2 回テラ・カフェ(ともつな基金～私たちの見た被災地～)

06 月 08 日(水)第 3 回テラ・カフェ(ウガンダを体感しよう! ～トシャが日本にやって来た～)

06 月 25 日(土) 子ども兵シンポジウム(東京)

「ウガンダ北部の紛争と子ども兵問題を考える～紛争の背景と問題解決に向けての課題～」

07 月 13 日(水)第 4 回テラ・カフェ(国際協力の一歩を踏み出そう～インターン・ボランティア～)

08 月 10 日(水)第 5 回テラ・カフェ(カンボジア事業報告会)

09 月 14 日(水)第 6 回テラ・カフェ(ウガンダ事業視察報告会)

10 月 12 日(水)第 7 回テラ・カフェ(コンゴ紛争とその背景について)

11 月 18 日(金)西水美恵子氏講演会「私たちの復興へ・雷龍の国ブータンから学ぶ」(岩手)

12 月 14 日(水)第 8 回テラ・カフェ(NGO・NPO の広報)

01 月 18 日(水)第 9 回テラ・カフェ(ともつな基金活動報告～被災地のいま～)

02 月 08 日(水)第 10 回テラ・カフェ(小型武器問題とテラ・ルネッサンスの取り組み)

03 月 14 日(水)第 11 回テラ・カフェ(テラ・ルネッサンスと私(インターン編))



テラ・カフェの様子

### ●各種イベントへの参加

下記イベントに参加し、本会の活動紹介や取り組んでいる課題の啓発などを行った。

06 月 25 日(土) チャリティバドミントン大会(主催:頑張らないバドミントン研究会)

08 月 07 日(土) 国際協カステーション(主催:財団法人京都府国際センター)

08 月 28 日(日) peace conference 2011(主催:社団法人大阪青年会議所)

09 月 11 日(土) チャリティバザー(主催:宗教法人松緑神道大和山)

10 月 09 日(日) カンボジアフェスタ(主催:カンボジアフェスティバル実行委員会)

10 月 16 日(日) 京都ヒューマンフェスタ(主催:京都府)

02月04日(土)～05日(日) ワン・ワールド・フェスティバル(主催:同実行委員会)

### ●スタディツアー

下記のとおり、カンボジアでスタディツアーを企画した。参加者は合計4名。

03月04日(日)～03月11日(日) カンボジアスタディツアー4名

### ●インターネット

公式ウェブサイト、鬼丸昌也サイト、ともつな基金サイト、大槌復興刺し子プロジェクトオンラインショップ、公式ブログ、カンボジア事務所ブログ、理事長ブログ、職員ブログを運営し、適宜、活動の最新状況を伝えるべく更新作業を行った。動画も制作し、動画サイトへの投稿だけでなく、ウェブサイトに組み込み、配信した。また、メールマガジン「テラ・ルネニュース」を定期的に発行し、974名(2012年3月26日現在)の読者に、活動報告、イベント情報などを提供している。

### ●報道

理事長講演やイベントを開催するごとに、プレスリリースを発行し、取り組みが報道されるように努めた。結果、今年度は43件のメディアに掲載された。

【メディア掲載(重複を除く)】読売新聞、河北新報、産経新聞、北海道新聞、毎日新聞、中日新聞、京都新聞、岩手日報、静岡新聞、宮崎日日新聞、朝日新聞、東北復興新聞、Campus Scope、リビング京都 中央、J:COM 週刊ボランティア情報「みんなのチカラ」、東北放送 TBC ラジオ「橋幸夫 明日へのエール」、InterFM、NHK 国際ラジオ放送(スワヒリ語)、じゃらんムックシリーズ「東北 2012-2013」、NHK テレビテキスト「すてきにハンドメイド」4月号、雑誌「いきいき」、ソトコト1月号、女性セブン、岩手めんこいテレビ、NHK

### ●フェロー、インターン、ボランティアの受け入れ

今年度は4つの受け入れ方法で、延べ2人のフェロー、15人のインターンを育成した。

テラ・ルネッサンスフェローシップ(※)		2人	
受入実績	継続～03月	立命館大学4回生	フェロー(国内業務補助担当)
	継続～03月	社会人	フェロー(ともつな基金担当)

※職員とインターンシップとの中間に立ち、全体業務を円滑に進めていく役割を担う有給非専従職員。

テラ・ルネッサンス 独自受入インターン(半年～1年以上)		昨年度の継続受入 7人 新規受入 2人 計 9人	
受入目的	①長期的に事業にかかわってもらうことで、当会の事業を担う人材を育成する。 ②当会の事業を通じ、「平和な社会」を自ら作り出せる人材を育成する。		
受入実績	継続～11月	社会人	募金箱プロジェクト担当
	継続～03月	立命館アジア太平洋大学4回生	回収事業担当
	継続～03月	同志社大学4回生	回収事業担当
	継続～継続	神戸大学博士課程前期2回生	ケータイ for コンゴ事業担当

	継続～継続	立命館大学 3 回生	回収事業担当
	継続～継続	立命館大学 4 回生	広報事業担当
	継続～継続	京都府立大学 4 回生	募金箱プロジェクト担当
	06 月～継続	同志社大学 3 回生	キフ★ブック、広報事業担当
	01 月～継続	社会人	広報事業担当

大学コンソーシアムインターンシッププログラム (夏季2カ月間)		1 人	
受入目的	当会の事業を通じ、職業としてのNGO・NPOを就職の選択肢として考えてもらうきっかけとする。 また、企業に勤めた際にも、社会貢献の視点を持った働きかたをってもらうよう、育成する。		
受入実績	08 月～継続	同志社大学 3 回生	事務局業務補助担当

長期実践型インターンシッププログラム (6 か月間)		3 人	
受入目的	① 京都のNPO6 団体が協働し、次世代のNPO ワーカーを育成する。 ② NPOの現場に即したインターンプログラムを構築する		
受入実績	04 月～継続	京都女子大学 3 回生	物品販売事業担当
	10 月～03 月	京都文京大学 2 回生	ともつな基金担当
	10 月～継続	大阪女学院大学 4 回生	パネル事業担当

夏季集中型インターンシッププログラム (夏季 2 カ月間)		1 人	
受入目的	① 京都のNPO団体が協働し、次世代のNPO ワーカーを育成する。		
受入実績	08 月～09 月	大阪女学院大学 3 回生	事務局業務補助担当

## 2. 東日本大震災における、被災者支援「ともつな基金」事業に関する報告

### ●緊急支援(内 2 例を以下に記載)

5 月 14 日 冷凍庫 3 台を、陸前高田市内のコミュニティセンターに提供した。(協力:名備運輸株式会社)

6 月 16 日 岩手県大槌町の金沢小学校(避難所)へ支援物資を提供した。(協力:宗教法人松緑神道大和山)



冷凍庫 3 台の提供



避難所への物資支援



## ●大槌復興刺し子プロジェクト

### ■プロジェクト開始と事業方針

2011年8月から本プロジェクトの運営母体となり、「東北地方に根ざした伝統技術『刺し子』を活用した事業を展開し、大槌町を含めた岩手・三陸地方での雇用機会の創出を実現し、地域社会の復興、伝統技術の継承や振興に貢献する」という事業方針を決定した。

### ■プロジェクトの活動

被災地である岩手県大槌町において、主として家族や住居等を失った女性が「刺し子」商品を制作できるように技術講習会を行った。制作された商品を当会が買い取り、インターネット等で販売を行った。毎週開催する「刺し子会」で買い取りを行い、被災された方々がともに作業し、交流する場を提供した。このように、商品制作代金の支払いを通じて生活再建を促進すること、また被災された方々の相互交流を活性化させ、心のケアを図ることを主な目的として活動を行った。

### ■プロジェクトの実績

<2012年3月31日時点(累計)>

販売枚数： 9,751 枚

売 上： 9,925,600 円

刺し子さん(※)の登録人数： 178 人

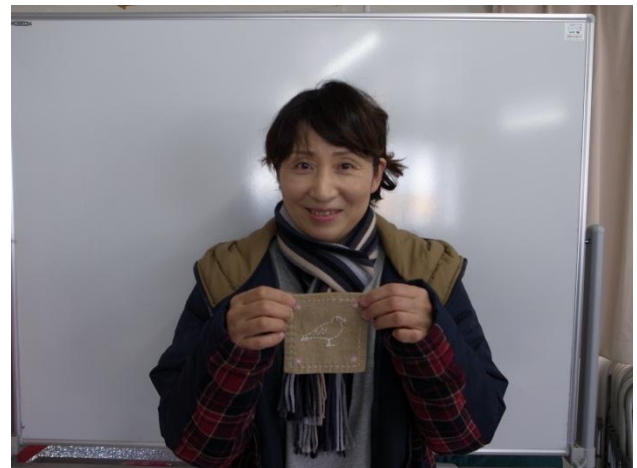
刺し子さん(※)の収入： 5,691,150 円 ※刺し子商品を制作する方



コースター



刺し子会の様子



制作したコースターを手に

## ●西水美恵子氏の講演会

2011年11月18日に、岩手県釜石市において元・世界銀行副総裁である西水美恵子氏を講師として招き、講演会を主催した。講演のテーマは、「私たちの復興へ・雷龍の国ブータンから学ぶ」で、48名が参加した。翌19日に、西水氏が大槌町にて「刺し子会」を見学し、また裨益者と意見を交換した。



講演会の様子

### 3. 組織運営に関する報告

#### ●会員現況(2012年3月末日現在)

正会員 123 名、個人賛助会員 308 名、ジュニア賛助会員 12 名、団体賛助会員 52 団体、ファンクラブ会員 527 名【合計延べ 1022 名・団体】

#### ●各種回収キャンペーン

今年度、古本を集め、換金し活動費に充てるキフ★ブックのスタートダッシュキャンペーンや書き損じハガキ、使用済みインクカートリッジなど、国際協力事業費に充てるための回収強化キャンペーンを2011年10月より実施。

#### ●協力団体との連携

今年度は 12 団体に加盟し、さまざまな協働事業、キャンペーンなどを実施し、自団体の活動を展開する上で有益な情報を得ることができた。

加盟団体: 特定非営利活動法人関西NGO協議会、地雷廃絶日本キャンペーン、日本小型武器行動ネットワーク、ウガンダ小型武器行動ネットワーク、国際小型武器行動ネットワーク、世界子ども兵禁止連盟、京都NGO協議会、児童労働ネットワーク、グルNGOフォーラム、GUSCO、MAG、特定非営利活動法人遠野まごころネット

#### 体制

##### ●役員(理事、監事)

2011年度の役員は、次のとおり。(2012年3月31日現在)

理事 小川真吾(理事長)、中井隆栄、岡田則子、鬼丸昌也

監事 鯉田勝紀

※2011年12月、本田俊雄監事をご逝去され、2012年2月、臨時総会を開催し、満場一致により鯉田勝紀氏が監事に就任。

##### ●組織・運営体制

京都事務局 有給専従職員 7 名、無給専従職員 1 名、フェロー 2 名、インターン 15 名で運営を行った。

ウガンダ事務所 ローカルスタッフ 16 名で運営を行った。

カンボジア事務所 日本人有給職員 1 名、ローカルスタッフ 6 名で運営を行った。

##### ●事務局

2011年11月、京都事務局を京都府京都市伏見区深草池ノ内町 5-23 内藤マンション 105 号室より、京都府京都市下京区五条高倉角塚町 21 番地 Jimukinoueda bldg.403 号室へ移転を行った。